



主張

部活動の充実と発展に向けて

伊藤 俊典

昨年の夏、公益財団法人日本中学校体育連盟主催の全国中学校体育大会の陸上競技、体操、新体操の競技を參觀しました。また、冬には駅伝とスケート競技を參觀しました。いずれも中学生アスリートの素晴らしさを感じ、同時に、日本の中学校の部活動のレベルの高さと成果の大きさも感じました。

そして、今年の夏はブラジルのリオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されます。また、二〇二〇年夏の東京オリンピック・パラリンピックまで、あと四年となりました。若手選手の育成と中学校の部活動とは深い関係があります。中学生の中には将来のオリンピックへの参加を夢見て練習に励んでいる選手もいることでしょう。将来が本当に楽しみです。

さて、中学校の部活動については、学習指導要領の総則において、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫



を行うようにすること。」とあります。

全日本中学校長会では、従前から部活動への取組を重視しており、本年三月に再改訂した「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革」の提言7に「部活動の意義を再認識し、学校教育の一環として教育課程との関連を図るとともに、部活動を運営するための具体的な対応を行う。また、教員の処遇改善への働きかけを更に進める。」と部活動の提言を掲げ、チーム学校についても触れています。

平成二十七年年度の全日本中学校長会の調査では、部活動の学校生活の効果については、「生徒同士の好ましい人間関係の構築に資することができた。」「学校生活態度の向上・規範意識の高揚に資することができた。」「地域への貢献や地域におけるよい評価につながった。」が上位にきており、中学校の教育活動における部活動の成果が明らかになっています。しかしながら、部活動には課題も多くあります。同調査において部活動の課題としては、「部活動指導における教員の負担や顧問の決定」「部員数の減少や部の存続」「生徒や保護者の部活動へのニーズの多様化」「学校の組織的な指導体制や顧問の指導力」が上位にきています。こうした課題の解決に向けては、全校での協力体制の確立、保護者・地域社会への情報発信、部活動指導員の効果的な活用、合同部活動の推進、「チーム学校」の推進による専門スタッフの参画、施設・用具の充実などが大切であると考えます。また、生徒の夢をかなえるための部活動の充実と発展に向けては、校内での努力だけでなく、校長会組織を活用しての国などへの働きかけが必要と考えます。全日中の今後の取組に期待しています。

(全日本中学校長会顧問・港区立小中一貫教育校白金の丘学園 白金の丘小学校・白金の丘中学校統括校長)